

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会（中央区・関内）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月13日（水）18時30分～20時00分 ・市民活動センター 多目的室
所管部課名	企画財政部企画課
<p>【概要】</p> <p><出席者> 市：健康福祉部長、企画財政部長、建設部長、財政課長、企画課長 事務局（企画調整係長） 住民：24名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 企画財政部長挨拶 3. 説明 4. 意見交換 <p>【住民】 何か明るい話はないのか教えてほしい。</p> <p>【事務局】 伊達市の人口は平成12年をピークに減少しており、現在は3万5,000人を切り、15年間で2,000人程度減少した。財政に関して、人口が減れば税収も減少すると説明したが、市税の収入は去年と比べると今年は微増している。その大きな要因は農業によるものだと分析している。道の駅の入場者や売り上げは道内1位であり、伊達の農業が非常に評価を上げていると考えている。それが農家の所得向上につながっているのではないかと。人口が減少しても、収入は増やせるといふ1つの例になったと思う。 市役所は市民の生活を預かっているのだから、人口減少の厳しい状況を理解した上で、行政を運営していかなくてはならないと考えている。やり方次第では明るい未来を描けると感じている。</p> <p>【住民】 人口減少に伴う高齢化対策に、具体的な計画はあるのか。</p> <p>【事務局】 医療技術が発達していることと、伊達市民は健康づくりに積極的であることから、市民が健康に過ごす期間が延びてきていると考えている。市では、歳をとっても病気の有無に関わらず元気であることが大事だと考え、「あ・し・た」（あるいて、しゃべって、食べる）というスローガンを掲げている。「歩く」は健康づくり、筋力維持をすること。「しゃべる」は、人との交流で好奇心や興味関心を持つこと。「食べる」は、食事をとること。この3点を実行することで、介護の必要性を減らせると考えている。市では、これを各地区や各自治会で自発的に行うよう促進させる取組を進めている。歳をとっても、病気の有無に関わらず元気で、自立した生活を長く続けていただくことを目標に、生活をサポートする取組を進めていこうと考えている。</p> <p>【住民】 市民のサポートのためには様々な人や金、施設が関わってくると思うが、その部分についてはどう考えているのか。</p>	

【事務局】

北海道や伊達市の現状とは異なるが、国は従来、高齢者には病院や老人ホームで過ごしてもらうという方針をとっていた。しかし約20年前に介護保険制度ができてから、高齢者のすべてのニーズには応えられないということで、現在は自宅やグループホーム等医療機関以外で生活してもらうという方針に変わってきている。市はその方針に従い、市民の協力のもと、長い間健康で生活していただけるような取組を進めていく。従来型の施設型サービスとしての特別養護老人ホームを増やすのではなく、地域密着型の自分の生活の中で受けられるサービスの施設整備をしていく。ただ、これは市が行うものではなく、民間の社会福祉法人やNPOが行うものである。

また、市民にも健康づくりに励んでいただく。健康づくりに関しても、市が直接取り組むのではなく、市が支援するボランティアやNPO、介護保険の事業者に委託する。市役所が介護保険で取り組む分野と市民が自分で取り組む分野、地域住民や民間が取り組む分野の3つに分かれる。必要なお金については、有償ボランティアや事業者への支払いで対応していく予定である。基本的には、自分の努力と民間の力、地域の力の三つ巴での取組になると考えている。

【住民】

人口減少対策は必要であると思う。高齢者が元気で長生きするための取組も1つの考え方だが、まち全体の活性化を図るためには、若い人の人口をどう増やすかが重要だと思う。道新の記事で、室蘭市の人口減少に対して有識者3人の話が掲載されており、人口を増加させることは難しく、若者の流出を防ぐまちづくりが大事だと提言されていた。伊達市においても同様だと思う。総合計画における人口減少対策に関する取組をお聞かせ願いたい。

【事務局】

人口の増減は社会増減と自然増減の2つがあり、伊達市では自然増減は250から300減で、生まれる人より亡くなる人の方が多い。生まれる子どもは200人を切っており、亡くなる人は450～500人であるので、人口減少は止められない事実である。

社会増減も、5年前から転入者より転出者の方が多く、減少傾向にある。以前（約10年間）は、転入者と転出者は同じくらいで推移していた。高校卒業後の若い人は進学する人がほとんどであるが、伊達市には高等教育機関がなく、また就職する人も就職先が伊達市か室蘭市以外だと転出してしまうことから、若い人の半分近くが転出する傾向にある。それでも社会増減を維持してきたのは、移住等で転入者が転出分を補ってきたからであり、伊達市が全国に先駆けて移住の取組を行ってきた成果であったといえる。

近年の社会増減の減少傾向は、全国で移住に取り組む自治体が増えてきていることと、首都圏からの移住者にとっては北海道の地の利がわからず、馴染みのある首都圏近郊に移住先を求める傾向にあることによると考えられる。

若い人に残ってもらうための施策として、総合計画と並行して「教育振興基本計画」の策定を進めている。策定にあたって、若い人に伊達市に愛着を持ってもらう、伊達市をよく知ってもらう、伊達市に残る気持ちを育む、または大学進学後も故郷に対する思いを持ち続けてもらうために、小中高連携した取組が必要だという意見をいただいた。「(仮)伊達学」と銘打って、小学校から高校まで協力を得て、市全体として郷土愛を育む取組を通して、地域に残ってもらう・戻ってきてもらえるように進めているところである。

また、働く場が非常に重要になると考えており、今すぐに特効薬となる施策は持ち合わせていないが、例えば農業の担い手不足など、現在課題として抱えている部分がチャンスになり得ると考えている。現状を把握した上で、どうしたら若い人が伊達に残ってくれるのかについて、これからも考えていきたい。良いアイディアがあれば、この場で教えていただきたい。

【住民】

伊達市には総合病院があるが、かなりの金額を伊達市が負担している。対応策を講じていると思うが、負担の減少は難しいと思う。総合病院でありながら、受診できない人も多くおり、

室蘭にある病院へ行く人が多い。総合病院が医療機関として自立し、市の財政負担を減らせるような対策は考えているのか。

【事務局】

総合病院へは、伊達市ができる範囲内で金銭的支援をしている。医師不足に関しては、総合病院の院長を筆頭に、北海道大学医学部と札幌医科大学医学部の医局に依頼し、派遣してもらうことで対応している。しかし、研修医制度の変更や地方勤務を希望する医師が少ないこともあり、伊達市や室蘭市も含め地域の総合病院に医師が来てくれないという現状がある。北海道大学・札幌医科大学では、北海道地域枠という北海道出身者のための定員枠を設け、卒業後は北海道の自治体で勤務してもらう取組をしている。この取組に関して、市も北海道や国に強く要請している。胆振西部地域に不足している、整形・眼科・泌尿器科・小児科・産婦人科の医師も派遣してもらえよう、北海道や国に要望を出している。

平成28年度においては、医療確保補助金として医師の確保のために2億円を、経営改善に必要な診療機器の購入に関して、精査したうえで半額の3,000万円程度を、昭和60年の建て替え時の借金の利子分の半額2,300万円程度を、合計で年間約2億5,000万円を支援している。

医師の確保をした上で、伊達市民に信頼される病院になってもらえるような支援をしている。ただ金銭的支援をしている訳ではなく、毎年伊達市に対して収支報告をしてもらい、精査や議会での報告を通して補助金に関して決定をしている。病院が自力で経営改善し、医師の確保ができるように、伊達市として支援している。

病院の看護師や医師への不満をよく聞くが、伊達市は改善してもらえよう強く要請している。また、今の診療体制では、室蘭市にある三大病院と連携・役割分担して診療せざるを得ない状況である。しかし強みもあり、消化器に関しては北海道内でも最先端であり、外科・透析・整形外科に関しても充実している。高齢者によくみられる病気にはある程度対応できるようになっている。市民が地域で必要な医療を受けられるように伊達市としてサポートしていき、本社の指導を受けながら努力していただきたい。

【住民】

多くの会議や市民によるワーキンググループの中で出た特徴的なアイデアについて聞きたい。また、室蘭工大で取り組んでいる官学連携において、伊達の将来構想について出た特徴的な提言を聞きたい。

【事務局】

8月に行ったシンポジウムにおける伊達高校と緑丘高校の生徒の提言の中に、ゆるキャラを通して伊達市を全国的にPRしていくことが必要ではないかという意見があった。また、伊達市内にある観光資源を用いて四季それぞれの観光メニューをつくり、伊達市外に発信して集客につなげる取組が良いのではないかという意見ももらった。伊達の自然環境を活かした自然のテーマパークをつくり、高齢者等市民に参加してもらい人呼び込めるような観光施設を運営してはどうかという意見ももらった。

「みらい会議」という市民のワークショップは、1月末に提言をいただく予定であり、現時点では具体的に示せるものはない。

大学との連携については、専門的な分野での結び付きはあるが、まちづくり全体としてはない。交通に関する協議会の中に、専門の先生に入っただきご提言をいただくことはある。最近札幌市立大とも連携しており、洞爺・壮瞥・伊達エリアの観光に対して提案をいただき、空き施設の利活用に関して学生にアイデアを出していただくこともある。

【住民】

小中学生を含め学生は柔軟な発想を持っている。伊達は観光地に挟まれているがただ通り過ぎることが多い。アピールが足りないと思う。例えば、道の駅にも伊達の紹介をするものがない。以前、商店街で絵ハガキの配布をしたことがあり、好評だった。そのような伊達を紹介する取組があっても良いと思う。

学校や教室の活用に取り組んだ方が良い。若い人が大滝でNPOを立ち上げた聞いたが、

そういう人の意見を取り入れてはどうか。私の所属する自治会には、大学で都市開発を専攻していた人がおり、伊達にも様々な知識を持った人がいるので、そうした人を募集して意見交換をする取組をしてみてもどうか。

産業に関しては、1次産業で終わらず、2次、3次、4次と資源を利用していくことが今の伊達市には足りないと思う。

【住民】

11年前に虻田から転入してきたが、伊達市は道路整備が遅れていると思う。増岡団地のあたりは傾斜地であり、道路がガタガタである。国道へつながる道は急な坂であり、信号はなかなか変わらない。混み合う上に危険である。橋を渡してほしいと以前より陳情しているが、費用が高額で予算がないからできないと言われる。体育館やプールなどの大きな施設の建設が終わったため、道路整備に充てる予算ができるのではないかと思うので、生活道路の整備をするべきである。元の消防署から光陵中学までの橋がない。末永団地が開けて40年近く経ち、館山もやっと開けてきた。簡単な橋でいいから架けてもらえれば便利になる。

市街から離れたところは酷い算盤道路で、市にローラーをかけてもらっても、すぐにまたガタガタになる。同じ固定資産税を払っているにも関わらず、人口が多いところばかり整備が進み、こういった細かいところの整備は進まない状況である。人や乗用車が通れる程度の橋をつくって欲しい。

北海道で管理しているという防風林の落ち葉の処理を徹底して欲しい。近くの北電寮の人と私で、落ち葉の処理をしている。伊達市へ相談すると、自分でやるか、増岡団地でやってくれと言われた。北海道の管轄だからと伊達市は対応してくれないので、住民と北海道の意見交換の場を設けて欲しいと要望しているが実現しない。

【事務局】

道路に関して、砂利道で歩きにくいということは理解している。気門別川の改修があり、それによって高さや広さが変わる可能性がある。河川敷を舗装してしまうと、改修後にまた舗装しなおさなければならず、工事の費用がさらにかかってしまうので、舗装まではもう少し待ってもらいたい。

簡易な橋については、危険性があるため河川管理の許可が下りず、立派な橋にしなくてはいけないが、それまで何かしら対策なくしてはいけないと考えている。

落ち葉に関しては道路の清掃は定期的に行っているが、崖の方からのものは住民にご協力いただきたい。

【住民】

多くの種類の木が生えているため、一年中落ち葉がある。木の高さを低くして枝を減らしてほしい。予算がないとは言いが、少しでも誠意を見せて欲しい。

【住民】

災害対策として、シャミチセ川の整備要望を以前から出している。前回の大雨の時も、川の上流部ではあと50cmほど増水していたら溢れていたと思う。もし氾濫してしまうと、避難場所に指定されている体育館やカルチャーセンターも危険ではないかと思う。河川整備は急務である。

最近、体育館やカルチャーセンターでは、各種行事や大会が行われており、大変良い事だと思うが駐車場が足りないと思う。河川整備とともに堤防強化もするだろうから、堤防を舗装して駐車場にしてはどうか。100台程度は駐車できるのではないかと思う。今後問題になってくると考えられるので、災害対策と合わせて検討して欲しい。

カルチャーセンターは市民の憩いの場でもある。水遊び場は非常に良いと思うので、市民の憩いの場としての活用方法をもっと模索していくべきである。遊歩道も非常に良いが、アンツーカートラックのように運動できるようにしてもいいと思う。

【事務局】

河川の管理用通路を駐車場にするという意見については、川を守るために必要なもので難しい。川の土砂については、シャミチセ川や気門別川は北海道の管理であるので、今後も要望を出していきたい。土砂取りは実現させたいと思っている。

【住民】

市道認定されている道路の延長に対して、現在舗装されているのは何%なのか教えて欲しい。私の住んでいるところは私道であり、家は12軒程あるが未舗装である。舗装されれば市道に認定されるのではないかと思う。似たようなケースが私の家の周辺に3件ほどある。旧シャミチセ道にはボックスカルバートが入っていると思うが、タンクローリーや宅配トラックが通れるように土管か何かを入れることはできないのか。

【事務局】

手元に資料がないので舗装率については答えられないが、市街化区域内の舗装率は90%を超えているはずである。舗装を伊達市でするのは難しい。寄付等で市道に認定することはできるが、認定を受けてもすぐに舗装ができる訳ではない。ボックスについても、市道でないともできない状態である。今できるのは砂利の支給であり、住民で道の整備をしてもらいたい。住民の協力で市道の基準をクリアできれば、市道に認定して伊達市で整備をしていく。

【住民】

地主が亡くなり、土地は財産分与で所有者が複数人になっているので、住民が道を整備するには多くの人のもとへ行かなければならない。早急には難しいと思うが、対応して欲しい。

【住民】

人口減少は伊達市だけの問題ではなく全国的な問題だと思うが、伊達市の人口が著しく減少することはないのではないかと考えている。伊達市は自然環境に優れた場所であり、定住希望者は多いと思う。かつてある医者が、「高齢者が増えることを心配しなくても良い。インスタント食品ばかり食べている現代の若者は長生きしない。戦後の食糧難を乗り越えて生きてきた者はしぶとく長生きする」と言っていた。人口の将来展望を見ると、2030年を機に75歳以上が減っているのは、それが理由だと思う。

国が地方の人口減少に取り組み始めたはずだが、いつの間にか立ち消えした印象を持っている。国の施策として地方の人口減少対策をしなければ、すでに疲弊してしまっている地方は何もできない。

人口減少により地方交付税と道の支出金は減少し、財政が厳しくなると考えられるが、市税を上げざるを得なくなると危惧しているのか教えて欲しい。

【事務局】

人口が減少すると、市税も減る。生産年齢に当たる人が収入を得ることで、市民税や所得税が発生し、市税となっている。生産年齢人口が減少すれば、市民税は減少する。しかし昨年、一昨年の2年間を見ると、市税は微増している。これは農業所得が増えたことも一因ではあるが、女性の就業者や高齢者の就業者が増えていることが主な要因であると考えている。

地方交付税は、市が成り立つのに必要な金額から、自己収入である市税を引いた、足りない分を補充するものである。人口は地方交付税の額を決定する大きな要因だが、地方交付税は市税で賄えない部分を国に手当てしてもらおう制度であり、今後交付税の基準等は変わっていくと考えられるため、直接市税の税率を変えることにはつながらないと考えている。

【住民】

このままの状態でも行政サービスが減少する訳ではないと理解して良いのか。

【事務局】

収入が減ると歳出も減るため、現状の行政サービスを保つのは無理である。行政サービス

の在り方についても考えなければいけない。

【住民】

伊達高校の近く、NTTの社宅があったところにアパートが7軒程建設中である。近隣住民に向けて、6月頃から建設工事が始まると案内状を出したが、突然連絡なく大規模な工事が始まってしまった。工事の許可は行政が出していると思うが、近隣住民に案内文を出すよう言ってほしい。

【事務局】

道路工事を伴わない住宅の工事であると、近隣住民への案内義務はない。建築についての確認申請時に、案内をするよう指導することは考えたいが、強制力はない。

先ほど話に挙がった歴史の杜の駐車場については、今年度中に30台程度の駐車スペースを新たにつくる予定だ。体育館側については今後も検討を続ける。

【住民】

安心安全という観点から、災害対策により一層取り組んでいただきたい。台風18号での暴風雨で、気門別川は氾濫の危険性があり、避難勧告と避難指示が出た。自分は避難勧告の段階で避難したが、山下町からカルチャーセンターへ避難する人の車は渋滞したと聞いた。避難場所がカルチャーセンターだけでは、人が殺到する上にスムーズに避難ができない。

伊達市街地の東西に、第一次避難所をそれぞれ設けるべきだと思う。現在閉鎖している旧研修センターや青年の家を避難場所にしてはどうか。この10年以内に有珠山噴火があると考えられるので、噴火にも対応できる施設や道路についても、総合計画の中で考えて欲しい。

【住民】

学校の統廃合等で、教員住宅に空きが多くみられると思う。老朽化が進んでおり、危険性があるので対応してもらいたい。

【住民】

伊達市への移住者に生きがいを感じてもらうためには、働く場を提供することが良いと考える。

財政破綻危機にある限界集落では、住民の積極的な意見交換があるが、伊達市にはそうした動きが足りないと思う。人口減少で生じる問題をどう解決するかを市民がもっと考えなくてはならないし、行政は働きかけなければいけない。

小さな村の視察に行ったときに、村長が村職員に10人から20人のネットワークをつくるよう勧めていた。様々な分野に長けている人のつながりは、例えば何か建物をつくるときに割安で設計してもらえなど、まちづくりに役に立つとのことである。外部の知恵やノウハウを活かせるような仕組みづくりを行政で検討して欲しい。

【住民】

有害鳥獣であるカラスが、夕方になると歴史の杜周辺に多数いる。建設中の歴史ミュージアムの屋根にも多数とまっている。糞などの被害があるので、きちんと対策を考えて欲しい。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

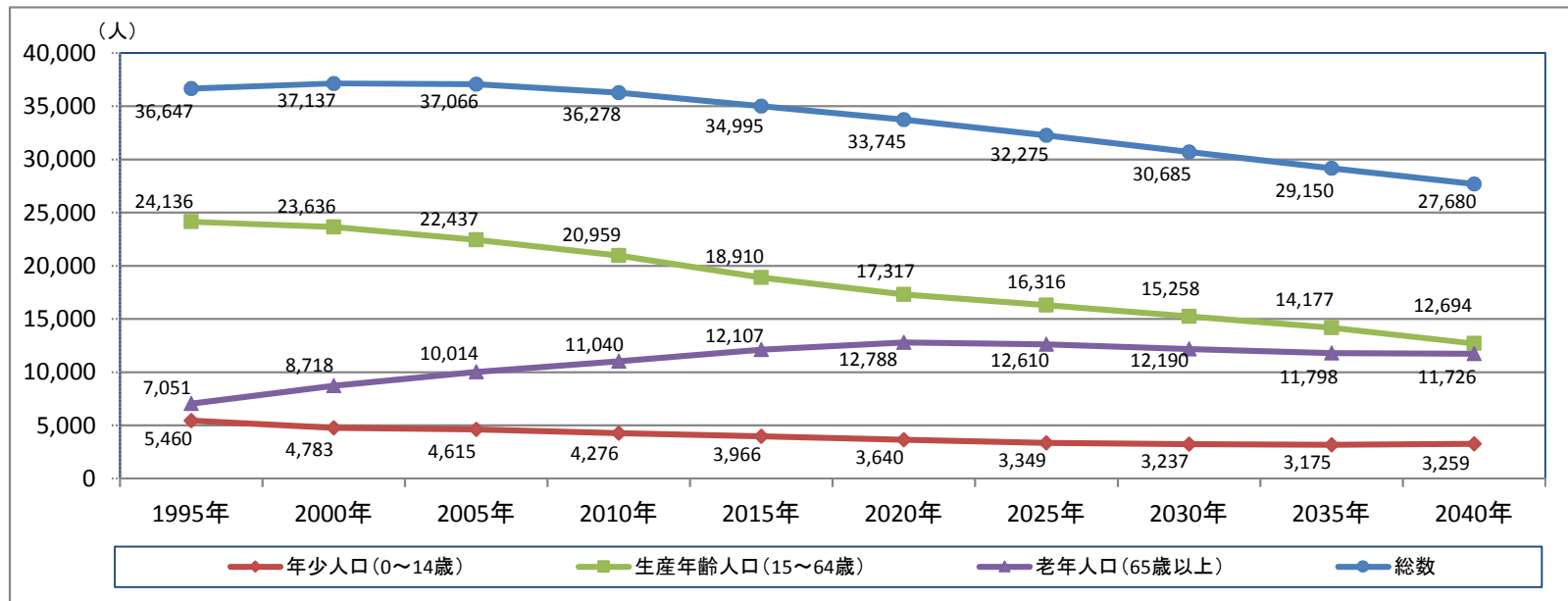
「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

■人口の将来展望

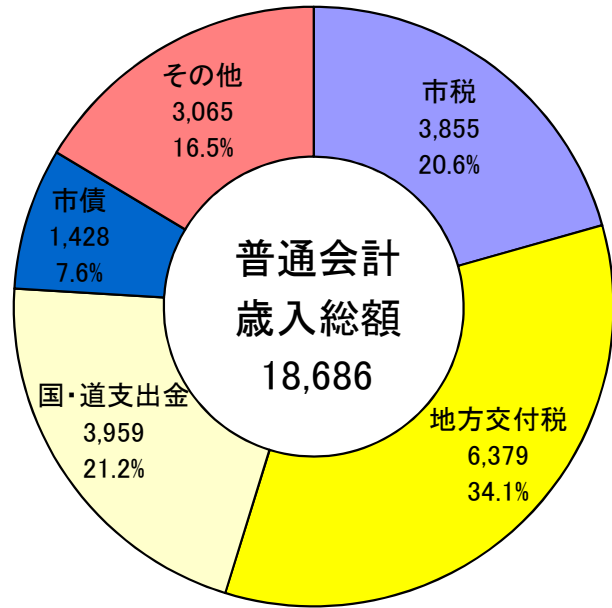
年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

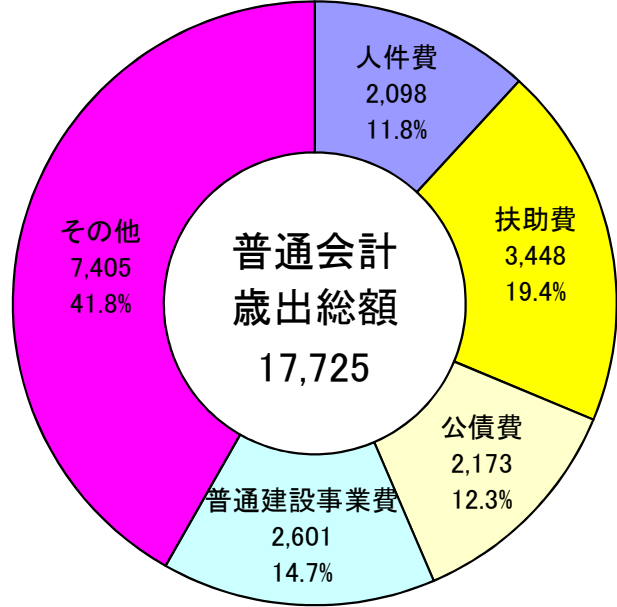


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

